

尾之間老人クラブ谷崎会(屋久島町)

発表者：毛利弘行氏

およそ800名が暮らす屋久島尾之間集落を、もっともっと住みよい癒しの里にしたいと、そういう願いを持って、私たち尾之間老人クラブ谷崎会140名の会員は、ささやかな活動を続けております。その一端をご紹介します。

大きく分けると5つの項目にわたりますが、まず第1点、見守り活動のことでございます。その1つ、「隣近所見守り隊」というのを発足させました。後で述べます会報「悠遊長寿」を14名の役員が分担し合って配布します。効率よく配るために自然と隣近所の班、これを隊と呼びますが、班ができます。会報配布役員が、隊長になります。月1回ですが、各隊員に声をかけながら配布します。隊員同士は、常日ごろ顔を突き合わせている隣同士の仲間たちです。健康状態や生活上の問題を抱え込んでいないか、お互いに声をかけ合います。問題を感じたら隊長に報告し、相談に応じます。



小さな2番目になりますが、長寿誕生日訪問というのを行います。90歳以上の会員が誕生日を迎えたとき、三役を中心にして訪問いたします。該当者は8名であります。家族と同居している方が6名、施設に入所している方が2名おられます。男女ではそれぞれ4名ずつになっております。簡単なメッセージにささやかな一品を添えて贈ります。昔話になりますと会話が弾み、来訪を大歓迎してくれます。

次に、子どもの登校時立哨です。集落内からは、小学生が34名、中学生が12名通学しています。子どもの多かった時代、先輩たちは、毎朝登校を見守っていたようですが、児童生徒が減少した今は、月曜日だけの立哨補導となっております。

大きな2番目に入ります。会員の健康づくりについて申し上げます。その1番目、健康づくりグラウンド・ゴルフ大会及びゲートボール大会を実施しております。親睦を深め、楽しみながら健康づくりを進めるのであれば、やはり生涯スポーツとして開発されたこのグ



ラウンド・ゴルフとゲートボールであろうと考えます。体育部の企画運営によりまして、5月にグラウンド・ゴルフ大会、6月にゲートボール大会を開催しました。同じところで同じ弁当を開き、にぎやかに談笑しながら楽しんで参加してもらいました。

健康づくり研修会のことですが、過去には集落内にある診療所の医師、町内総合病院院長による医療講演等も実施しております。今年は、スポーツ推進委員のゲーム感覚でできる軽い運動による実技指導を実施していただきました。会員大部分の皆さんが「楽しかった。またやりたい。」と好評でした。

町老人クラブスポーツ行事への参加です。9月にグラウンド・ゴルフ大会及びゲートボール大会が行われました。グラウンド・ゴルフ大会には、9チームが参加しました。これは尾

会報 悠遊長寿
第50号 平成25年9月30日
(50回発行記念)
尾之間老人クラブ谷崎会教養部

会報50号発行に寄せて
会長 毛利弘行



尾之間老人クラブ谷崎会では、65歳になると入会できることになっています。しかし、「クラブに入会すると行事が多く大変だ」「まだまだ老人と呼ばれたくない」「自分の仕事があるから行事に出られない」など、いろいろな事情で入会を拒む方が増えています。私は老人と呼ばれるまで生きながらえて来たことにまず感謝したい。そして身体的に老化傾向にある仲間と、精神的な若さを保ちながら老化現象を少しでも先送りにするために努力したい。ここまでおかしな地域に幾分なりと貢献したい。こんな気持ちで日々を過ごしております。平成13・17年と会長職を務め、20年3回目の会長に就任。クラブの在り方を振り返る。スポーツ活動は盛んだが文化面の活動は低調。会員は協力的で年間行事計画もスムーズに消化できている。しかし同じ会員でありながら、参加できない会員には活動状況が伝わらない。活動内容・状況を共有することで全会員の連帯感も生まれる。このような反省から「会報 悠遊長寿」は、平成20年5月に産声を上げるようになったのです。片面でも、2か月に1回でも発行できればよいと思ってスタートしました。監事でありながら、教養部長を引き受けてくださった戸床頭先輩が、記事集めや投稿者の掘

り起しにとまに東奔西走。投稿者も増え両面刷り毎月の発行となりました。尊い体験や心に沁み渡る素晴らしい短歌など、文化面にも火が灯った感じもしました。面倒で煩わしい会報、やめることは簡単です。継続するためには大変な努力を要します。これが50回目の発行を迎えることができたのです。素晴らしいことです。関係者各位に感謝の気持ちで一杯です。尾之間老人クラブ谷崎会の誇りでもあり、会員の皆さんとともに喜びたいと存じます。どうかしたぞ、谷崎会！！

100号は5年先位でしょうか。どんな会報に成長しているでしょうか。長生きして見届けたいものです。継続できるかどうかは、会員皆さんの会報を育てる気持ちの有無にかかっています。ご協力ありがとうございました！

会報記念号の発行に際して
教養部長 竹下 慎一



今日は、会員の皆様へ会報「悠遊長寿」の記念号第50号をお届けできることを、大変うれしく思っております。まずは記念号の発行をお慶び申し上げます。これも会員皆様方のご支援、ご協力の賜物と深く感謝いたします。ありがとうございます。これからもよろしくお願ひいたします。さて、記念号の第50号という数字を見ると、改めてよくぞここまで来られたと、感慨深いものがあります。そこでこの第50号の会報発行に当たり、一つのこと思い出されました。それは昭和47年度に鹿児島県で開催された太陽国体の時に、ときの県知事金丸三郎殿が「継続は力なり」と、県民に対して力強いメッセージを発せられたことです。県知事は、太陽国体の各種競技に出場する選手の皆様へ、夢と希望を持って競技に

之間の老人クラブから参加したチームです。他集落のチームが、7個ものホールインワンを出して優勝しました。この時は、尾之間チームは3位が最上位に終わりました。昨年は、優勝して県老連の大会にも出場しております。ゲートボール大会は、尾之間から6チームが参加し、尾之間のチームが優勝して県大会に出場しました。10月の老人スポーツ大会には、大勢の会員が参加いたしました。

大きな3番目になりますが、会報「悠遊長寿」を発行しております。超高齢化が進みまして、年